
キャラ崩壊！！物語 1 ~こくこく染まる黒~

桜井はる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キャラ崩壊！！物語1～いくつも染まる黒～

【Zコード】

Z0214BA

【作者名】

桜井はる

【あらすじ】

これはキャラ崩壊します！！

うん。絶対絶対

しかも非現実的で、魔法とかでてくるかも・・・・

それと、これは原作の事件の内容とか、トリックどんどんつかいます

それがやならよまないでください！

あと苦情、うけつけません。
てか無視します。

それでもいいならよんでもみてくださいな。

それいがいはバツクばつく！！

コナンくんの性格とかかわってるし。

灰原さんも！！

本当もうどたばたです！！

でわ～

ファイル1～物語の設定

まず内容設定

登場人物

江戸川コナン（工藤新一）

どうして偽名つかってるかは知ってるよね？そこはざばしますこの物語の主人公。

町一番の美少年とのうわさだが本人はそんなこときやいでいない。またキッドキラー、少年探偵団の頭脳、星として有名だが控えめな発言などでさらに人気がでていることは本人はぜんぜんしらない。最近、組織の人間の気配がわかるよくなつた。

最近は危険なことがおおすぎて普通の生活といつよりもいつ組織に招待がばれるかはらはらビビりの生活をおくつている。

毛利蘭

かなりの美人だが、新一が居るため「男子もねりつてこない」コナンのことを影でささえお姉さん。

コナンの正体にはさすいていない。

新一のかえりをこころまちにしている。

灰原哀（富野志保）

コナンとおなじでおおまかに設定はみんなしているよね？

最近、平和ボケになつてきたらしく組織の第五感がはたらなくなり、組織の気配がわからなくなつた。

コナンのようなあかるくも、言葉にとげがあるような性格になり、組織にはあまりおびえなくなつた。

推理力もコナンといったおかげでコナンほどではないがどんどんあがつた。

子供達ともなかよくなり、歩美のことたまに歩美ちゃんとよぶようになつた。

組織へのおびえ方はコナンと真逆になつた感じ。

吉田歩美

コナンと灰原の正体にきづき、光彦、げんたとともに一人をといひめ、見事二人の正体をしり、協力してくれるようになつた。哀とは本当になかよくなり、信頼しあえる存在。

コナンのことがすきだが、その思いは胸にしまつてある。

円谷光彦

歩美とともにコナンと哀の正体をしる。
それからは一人に協力している。

哀に好意をもつていて、組織のことが終わつたら哀に告白しようと
している。

コナンにもきをゆるしておたがいに信頼しあつてゐる。

小島げんた

歩美、光彦とともに、コナン、哀の正体をしる。
それからは一人に協力している。

コナンのことを親友としてみとめていて、歩美のことがすき。
警察関係者はマンガをよんでね

服部平次

くわしくはマンガで

かずはがていたんに母親の事情で天候することになつたため、ついてきた。

いまはあがさ邸に居候中。

コナンのことをささえている。

遠山かずは

平次とともにあがさ邸に居候中。

コナンの正体にきづいていない。

灰原アミ（クリスヴィンヤード）

組織を裏切り、あがさ邸まできて、そこでAPT-Xをのみ幼児化し、
哀の双子の妹としてていたんにかよつてゐる。また、あがさ邸に居
候中。組織はクリスが秘密主義者のため、大丈夫だと思い、クリス
をおつてこないため、クリスは哀とコナンの協力をしている。

コナンのことを江戸川君、哀のことを哀とよんでいる。

大野夢（浦野ヨリ）

FBIで下っ端としてはたらいていたが、クリスがもつてきたAPP TXをまちがえてのんでしまい、コナンたちの正体をしった。組織の存在さえしらなかつたため、組織に狙われる可能性がないことをおおいによろこんでいた。

あがた邸に居候していて、ていたんにかよいながらコナンと哀の協力をしている。

鈴木園子

「コナンたちの正体をしらず、最近はキッドの事情をしり、キッドの助手の、怪盗レディーレディーをしている。」

黒羽快と

くわしくはマンガを

二代目快等キッド。

その子を信頼していて一緒に仕事をしている。

青子がすき。

毛利小五郎

くわしくはマンガへ！

コナンたちの正体をしらない。

えりとよりをもどし、コナン、蘭、小五郎、えりの4人暮らし中。

妃えり

小五郎とおなじ。

てな感じ？

途中でまだまだでてくるよ

これは現実できじやなくて非現実的つす！
魔法とかでできちゃうかも・・・・・

ファイル2～黒の組織との再会、コナン編～

学校の休み時間・・・

夢

「ねえねえ知ってる?」こんどのゴメラの撮影でしんじやつた人をしのぶ会」「

歩美

「もつちろん!..しつてるよ~外国の有名な俳優さんとか、スポーツ選手とか、いろんな有名人がくるんだよね」

夢

「そうそう。それでね、子供だからこそっとしのびこめるしごとみないつて平次おにいさんが。おにいさんだけ正体されてるの。今日の夜!」

光彦

「そうですね。ぼくらも一応有名人ですもんね。」

げんた

「だよな。いつてみよつかしぃ?」

アミ

「まあ。いつてみよつかしぃ?」

哀「そうね。てか江戸川君は?」

「みつひ」「ああ。ちよつと風っぽいみたいで保健室でねてますよ~。」

哀「へえ。まあ江戸川君だつたらつこくわがつね。」

歩美

「うん。うん。まあ今回はいいんじゃない?」

哀

「じょうがないわね。」

そのじる「ナンは・・・・・

「ナンは夢のなかにいた。

みんなで」学校の帰りに雪がふる道をあるこてこれる。

げんた

「おい観たかよ昨日の試合ー。」

コナン「ああ・・・ヒートのオーバーヘッジだら~」

光彦「芸術的でしたよねーーー!」

『戯言は終わりだ・・・まあ夢からぬで・・・お前の好きな緋色で、再会をいわおひじやないか・・・』

「ナンたちはポルシHのよこを」とおつかせや。

『なあ・・・工藤新一・・・』

「ナンはどびおきた。」

「ナン

「ハア、ハア、いやな夢だぜ・・・」

「ナンは頭をかいだ。

保健室の先生はいなこよつなので保健室をぬけだす。

教室につくともいつ事業がはじまっていた。

小林

「あら、もう大丈夫なの」

「ナン」「はい。すいませんでした・・・」

息はたしかにきれでいてひどく冷や汗をながしていた。

「ナンは悲しい険しい表情で席にすわった。

哀

「夜、子供たちと服部君といっしょにしおぶ会にいくの。ハイドン
ティホテルの。あなたもいくでしょうか?」

「ナン

「ん、あ、ああ・・・」

そのすぐあとに授業がおわった。

歩美「わ～みて、雪がふつてゐるよ～」

「すっぴ～」

歩美「ほら、コナンくんも・・・」

歩美がコナンの手をつかんだ。

コナンはつよく手を振り解く。

コナン

「俺にさわんな！！」

歩美

「」

光彦

「コナン君・・・？」

アリ「・・・」

夢

「・・・」

哀

「・・・」

コナン

「もう一つやりだよ・・・。こんなところ・・・。すぐこでむ〜〜
かうきえちまいといいくらこに。まあそのうちやつなるだらつかど・
・」

歩美

「え～「ナン君天候しちゃうの～」

光彦

「ひょっとしてこじめですか！？」

げんた

「そんなのねがやつけてやんよ……」

歩美「あ・・・・・もしかして、組織の」と・・・・？」

「ナン」「へ？あ、わり。風邪氣味だつたからついたくないだけだ
よ。」

歩美

「よかつたあ。さあかえる？あがせ邸までみんなでいってそのまま
しのぶ会こくんだから」

「ナン

「ああ。わづだな。」

アリ、「あー、夢」と・・・・・

全員で帰りみちをあるこていった。

歩美「ゆーややこ～んあ～りや～こ～ん

「ナン」と・・・・・

哀「「」は自分の居るぐれ場所じゃない……」の子達をまわる

えにしないためにも早くここから消えなければ……」

コナン「へ?」「

哀「なーんてくだらないことかんがえているんでしょ?」

夢「大丈夫だよ。薬で体がちじんだんなんて夢物語、誰もおもいついたりしないよ~ね、あみ?」

アミ

「そうね。ばれないためにもこのまま子供をえどじつづけなきゃいけないのよ···」

哀

「そのときがくるまではね···」

光彦

「心配しないでくだれい···」

げんた

「やばくなつたらよ、」

歩美

「歩美たちが一人をまもつてあげるもん」「

コナン

「(おめえら···なにもわかつてねえんだな···俺らだけでなんとかできるあいこじやねえことは今までの経験でわかつてんだろ? もしかしたらあの夢のようこのもこの町のどこかで俺たちを···)」

「ナンせびりくつした顔で」セビリとまつてこのポルシH 356Aをみた。

「ナン」「おこ、それ……」

歩美

「ほ、ポルシH……」

哀

「ヒーヒーヒジンの……」

哀は博士に電話しだした。

哀「すぐきじ、セツ、あれをもつて!—みんなでのれるレンタカー
かりてきなセ!—!」

哀と平次ははかせがもつてきたハンガーと針金で車のドアを開けて
中に入つてこんだ。

「ナン

「うふ、おこ!—!」

哀は盗聴器と発信機をしかけた。

「ナンもあわてて車の中にはいついみとおつの回りのみとあぜん
とした。

「ナン

「ジン、ウォッカ・・・」

とおりのむじうにはその一人がいた。

コナンはあわてて平次と哀をむけりやりひつぱつてほかのこどもたちとともににはかせのセレンタカーにのりこんだ。

哀

「よし、発信機と盗聴器をしきけたわよ。」

平次

「とつあえずここで盗聴器から聞こえてくる音をきこいつやないか・・・」

コナン

「危険だ！ やめろって」

哀

「つねさま、だまつてなさい……」

歩美「あ、きこえてきた・・・」

ジン「ああ、おれだ。どうだ？ そつちの様子は・・・？ まだこない？ 安心しる。ターゲットは18時ちょうどにハイド氏8ティホテルに顔をだす。てめえの別れの快になるともしらすにな。とにかくやつのがうりにまわるまえに口をふさげとのめえいれいだ。ぬかるなよ？ スコッチ。何なら例の栗をつかつてもかまわないぜ？」

げんた

「す、スコッチ？」

ジン 「（ん？特徴があつてやうやうの短めの黒髪・・・？）

ウォッカ

「な、なんですかそれ？」

ジン

「発信機と盗聴器だ。」

アミ

「ばれた！？」

ジンは盗聴器をつぶした。

ジン

「（まさか本当にこきてたとはなあ・・・歓迎するぜ？）藤新一・・・」

コナン

「どうすんだ？状況はかなりわりいぜ？」

哀

「大丈夫。社内に私たちの痕跡はけしたから。」

コナン

「これからどうすんだよ？」

平次

「パーティーに全員でのつじむるや。ターゲットはおやうく横領の

疑いがある近藤正孝ぢや・

コナン「俺は『めんどだぜ?』

哀

「ええ。最初からそのつもじよ。あなたは博士と車の中であつてな
れい。」

アミ

「さうね・

歩美

「例の薬ぐらいはもつてきてあげるから。」

ジン「ああそりだ! 藤新一だ・・・殺し底値たのがきがそつちに
むかつてこるはずだ。面がわからんねえんなら組織の被験者リストを
しらべろ・

ああ。まちがいなくあの男はくるぞ。あこいつはさうこいつやつだから
な。

とにかく書きをみつけしだいとつつかまえて面をおがませる。ああ、
問題ない。たとえ首から下がなくともな・・・・・」

パーティー会場に博士以外のみんなはいた。

哀

「ついてこないんじゃなかつたのかしら？」

コナン

「なんとなく。いやな感じがすっからきた。」

アミ

「あら、いたわよ？ターゲットさん。」

光彦

「ですね。」

アミ「いい？特に江戸川君、私達からはなれるんじゃないわよ？」

平次

「せやせや。てかしのぶ念だけあつてみんなあやしく、いえてくんの～」

『工藤新一・・・・』

『工藤新一・・・・・・』

『工藤新一・・・・・・・・』

がしつ

「君、迷子？」

「ナン」「え、あ、あ・・・・・」

哀「うん…」

夢

「ごまおとーやすがしてると」

歩美「こいへ光君」

歩美たちは「ナン」をつれてきた。

歩美

「どうしたの?」

夢

「ナン君うしくないよ?」

平次

「せや。」

「ナン

「みたんだよ・・・」

一同「へ?」

「ナン

「いやな夢・・・ト校途中にジンたちにみつかって路地裏においこまれて一人一人、ジンに銃殺されていくて・・・・・」

哀がそんな「ナン」に自分の帽子をかぶせた。

哀

「大丈夫よ。」

げんた

「そうだぞ」

光彦

「それをかぶつていればだいじょうぶです」

歩美

「うんうん」

コナン

「・・・・・ そうだといんだけどな・・・・」

ぱあ～ん!!

「ナン」はやわしく笑つた瞬間スライドのせいで電氣がぱつときえた。

哀

「銃声」

「じんがらがつしゃん!!」

シャンテリアがおちてきた。

ハンカチがいちまいふつてきて哀画キャッチした。

でんきがつくとおちたシャンデリアとそれにつけられて死んでいる近藤正孝がいた。

悲鳴がいつきにしきいえてくる。

軽侮たちがやつてきてドアをしめた。

そとにはもう貴社がこっぽいだそうだ。

「怪しい人を見た人はいませんか？」

警部がさけぶがみんなまつていた。

孝は普通にライスをたべていたが途中でペツヒシャンデリアの破片を由佳にはきだした。

孝「なんだこれ？」

哀はそれをさつとハンカチにくるんでとつた。

平次

「シャンデリアをおとすなんて仕掛けでもないかぎりむりや。 いつたいどーやつて。」

みんながかんがえふけつているとコナンが哀の手をつかんであつきました。

哀

「ちゅうとうーー。」

「ナン

「これ以上ここに腰座る必要はねえだろ。こいつおれたちだつて落ちてきたハンカチだけじゃ。」

平次

「二つないひづれへ

「ナン

「え?」

歩美

「住山ひぬじさんのがじ飯からシャンクトコアのはぐんをおとしたんだよ?」

平次

「それにハンカチもここで配られる限定もの。色があつてさつきしらべたらあのハンカチとおなじのをもらつたひとは一人だけや。」

アミ

「つまり容疑者はそれだけ。」

哀「ねえ刑事さん。トイレこつていい?」

刑事

「いいよ。じつめ。」

ドアを開けた瞬間すゞい勢いで記者たちがはいつてきた。

みんなフラッシュを書いていて100人はいる。

一同は唖然とした。

スコッチ「・・・」

スコッチはパソコンを開いた。

かたかた

KUDOUSHINNITI

ぴゅうん

スコッチ「・・・」

しばらくすると客もかえろうとしてようとして大混雑になつてしまいそれに一同のみこまれ200人をこえるひとがぎゅうぎゅうズ目になつてはいろいろとしたりかえりつとした。

平次「お、おい大丈夫があー！」

哀

「あれ、工藤君はー？」

アミ

「いなくなつてゐわよーーー」

步美

「うそ、ほんとうか……？」

げんた「こなーん！？」

光彦「コナン君！！！」

哀

「…………藤君…………返事して……。」

平次

「あれ、工藤どうがうか!?」

「ナン」「あ、ちよ・・・・」

「ナンはだきかかえられた。」

アミ

「だれかにかかるられてるよ！？」

哀

「 もう、 とおもわぬ二人がおおもわぬーーー。」

コナンは口にハンカチを「あてられた。

がばつ

「ナン」「ハハ……」

歩美「口にハンカチあてられてるよー?」

「ナン」「……」

がくつ

「ナンはそのままれをひこなつた。

『「ナン君……』

『ねあてぐだれこ……』

光彦

「「ナン君……」

「ナン

「え?」

光彦

「どうしたんですか? 今授業中ですよ? やっぱりすんでいたほうが……」

「ナン」(轟……ふつ……) うだよな。下校途中にジンの車をみつけるなんてでかあれてるよな……風邪のせいでもつかしまつたのか? 僕……)

『「ナンくそ……』

「ナン」「え？」

『上藤、おこ上藤！』

「ナン」「なんなんだ？」

『 ナン、ナン！』

「ナン」「なんなんだよ・・・」

『 上藤君！』

やつと「ナン」が皿をわざつた。

「ナン」「は、灰原？」「だ！」

哀「よかつた。いまめがねのきのひで会話してゐるよ。他のみんあ
もじるわ。」

「ナン

「な、なにがあつたんだ？」

アミ

「それせひのせつぶよ・・・あなたはどこまでもここなの？迷
子？」

「ナン

「んなわけねえだろ。なにがなんだか・・・」

歩美「歩美たちは博士の車のなかだよ。」

コナン

「あ、たしかおめえらとほぐれてそしたら後ろから男に・・・」

夢

「に、なに?」

コナン

「だきかかえられてクロロホルムかなにかをしみこませたハンカチで口をふさがれてそのまま『氣絶しちまつたんだ。』

哀「その男、いまいないんでしょうね?」

コナン

「ああ。どつかの倉庫を酒蔵にしたみてえな感じで監禁されているよ。ドアの鍵はしつかりしまってけどな。指紋認識装置まであるぜ。」

平次

「今時期円のこととはなしして7人の容疑者待機させてんや。犯人その中の誰かでまちがいないんやけどまだわかつてへんのや。まあその中にスコッチとやらもいるやうからあんしんしどき。」

げんた「でもよ。やっぱあこつだつたんだ。」

コナン「あこつ?」

夢

「つなぎきておつきなダンボールを台車で運ぶへんなやつがいたの。でね、おいかけたんだけど指紋認識のとかぎかけて私達を無理やり

おひざりつたのよ。」「

コナン

「ふうん。あ、パソコンに俺のM〇がつながってる。」

哀

「M〇?」

コナン

「ああ。蘭からもうりつた遠足の写真のやつ。俺の服にはいつてたらから多分しらべたらあんだな。携帯もつながってるってことね・・・」

かたかた

コナン

「やつぱり。俺の顔を検索してる。」

歩美

「あれ? コナン君縛られてないの?」

コナン

「ああ。すぐもどつてくる予定だったんだな。まあ服部のせいで止められてつねだ。」

哀

「どうからかにござりれないの?」

コナン

「暖炉がひとつあつけど広すぎても無理だな。元の体ならなんとかなるかもしれないえけど。」

哀

「ロープかなんかないの？」

「ナン

「さあ？でもそんなのがあんなら俺をしばるのにスコッチがつかつてるとおもひせば？」

「ナン」「いいか？よくきけ。」

平次「へ？」

「ナン

「こまパソコンで組織の構成員だけど住所とかだしたんだ。コレくらいうおぼえられんだろう？まずは鹿児島県、 - 5 - 3 黒井竜や。」

「

哀

「ちよっと、暗記できるんならあとであなたをたすけてからきいてあげるから

「！」

「ナン

「次。」

哀

「やめなさい……。」

「ナン」「つむせーーー黙つてきけよーーーもつお前、りと言葉をかわす」とはねえだらうからな。」

平次

「どういたしまして…」

コナン

「わからぬえか？やつらは俺が幼児化しているにもかかわらず監禁したんだぜ？てことはもうばれてんだ。俺がこのままにげまわってたらどちらにしろまわりのやつらが殺される。それに俺はもうパイ刈るでもどれねえし灰原のときよりもはるかに状況はわるい。な？じやあつづける。」

哀

「とりあえずパイカルとできるだけアルコール濃度が高いお酒をのみなさい。もしかしたら…」

コナン

「わあつたよ…」

歩美「え、どうしよう…」

平次

「事件当時の容疑者の位置はわかつたんやけどな…」

コナン

「なあ、思いついて言葉つてあつか？」

平次

「なんやそれ？」

コナン

「APT-Xのデータをミロサムヒトリシトんだけビパスワードにひっかかるちまって。」

哀

「うへん・・・」

アミ

「多分それぴ巣子のときとおなじたいふだからおなじパスワードでいことおもうわ。」

コナン

「あ、ひらこた。」のまのかくしとくから俺がつねにいるね！あとでとつここよ。」

哀

「それよつお酒のんだの？」

コナン

「ああ。どうにうつもりだがしらねえが余計氣分がわるくなつたぜ。・

博士

一回「え？」

「お、おこみんなー！」

車のまえに人たちの車がやつてきて二人がでてきた。

哀

「多分パソコンのなかに発信機がしきかれてたのよ！！」

歩美

おまかい おまかせ おまかせ

コナン
「ハア、ハア・・・」

平欠

「おこどーしたぐどー、返事せんや、おこどー。」

どくくん！！

「警部、服部や、いますぐ黒服の男たちにしょくしつせい！！」

刑事「いないよ？そんな人・・・」

二十九

どくくん

「ナン「アアアアアアアアアアアアアア！」！」！」

ぱいしゅ、ぱいしゅ

バン！
！

ウォツカ「妙でつせ、だれもいやせん。」

ジン「帽子がおちて……」

ウォツカ「とにかくすらがりましょ。」

ジン「ああ、そうだな……」

哀「ねえ? もうやつはこいつたの?」

コナン「あ、ああ・まさかまたもとにもどるとはな……」

哀「あなたふくは?」

コナン

「倉庫にあつたつなぎをきてるよ……もちろん薬のデータを『ペーした』のももつてるよ……」

哀

「安心しないで・その効果は一時的。子供になる前に煙突からでて。」

「

新一

「へいへい。で、わかつたのか? 誰がスコツチか。」

アミ

「残念ながらまだ……今大阪の探偵君がみにいったわよ。事件現場。」

光彦「大丈夫ですか？」

新一

「あつじきつ・・・な。」

哀「あ、わかつたわ！－スコッチの正体！－！」

新一「で、でたぜ？でこれからどうすればよいんだ？」

博士「そこにまつてこないとおったが、」

新一「博士？みんなは？」

博士「安心せい、いまそつちにむかつとる。」

新一「わかつた・・・」

パシュウ

ジン「あいたかつたぜ？」藤新一。

新一「ハアハア」

ジン「きれいじゃねえか。闇一枚散る白い雪。それをそめる真っ赤な先決・・・」

新一「よ、よくわかつたな・・・俺がここからでてくるつて・・・」

ジン「だんろのそばに帽子がおちてたからなあ。」

新一「へ、へえ。まあ感謝しなくちゃいけねえな。こんなさみいなかまつてくれたんだし。」

ジン「口が動くつかないか。お前が毒薬をのんでしななかつたわ！」
「

歩美「もひづくべだよ……。」

哀「？・・・もしもし…。」

哀「ええ…？ 」
藤君がうたれた？」

はかせ「あひじゅ、ビリかの脣上で。もうへ、させつけられたれてるぞお…。」

哀「うそ…？ あなたね…。」

アリ「セソヒトコルがなくひゅせばこわよ…。」

ぱあん…。

ウォッカ「はああせんせー」のがわ。」

ジン「ふつ。しゃがねえ。いかせてやるか…。」

ジン「（針…？）」

ウォッカ「あ、兄貴…」

アミ「煙突よ…早く煙突に…！」

ウォッカ「誰だてめえは…！」

新一は煙突にはいった。

新一「ハアハア…ウアアアアアア…！」

スコッチ「すばらしい…・・・」

コナン「（誰だ…？）」

スコッチ「君はまだ赤ん坊だったからおぼえてないだろうがね、女優だったきみの母と私はどうでもしたしきてね、よくいつしょに共演したもんだ…・・・だがこれは命令なんだ…・・・」

コナン「（誰なんだよお前…）」

スコッチ「悪く思わんでくれよ? 新一くん…・・・」

哀「そこまでよ…バングさん…・・・それとも、スコッチってよんだほうがいいのかしら?」

スコッチ「だ、だれだ！？」

哀がスコッチの前にすがたをあらわしいきなりはしりだした。

スコッチもそれをおつてはしりだす。

その隙にげんた、歩美、光彦、アミ、夢がはいつてきてコナンにかけよつた。

コナンはまだ意識が朦朧としていた。

歩美「大丈夫？」コナン君」

光彦「もう大丈夫ですよ。」

アミ「ひどいわね。かるく5・6ぱほつはつたれてるわね。」

夢「い、いたそつ・・・」

そういうとげんたがぶかぶかのつなぎをきてめがねも帽子もしない状態でだきあげて恵那かにまわしあんぶをした。腕は打蘭としていてコナンのさらさらのかみがげんたにあたつた。

コナンはもうすでに気絶しかけているよう荒い呼吸をしていた。

哀はスコッチに対し推理をはなしている。

スコッチがスピーカーにむかってはつぽうするとなかなかかなりアルコール濃度のたかいさけができてすつっていたタバコが引火してもえだした。

そしてスコッチがあたふたしているうちに全員ぬけだした。

それからフロアにいくと平次と高木刑事がいた。

高木「おわつ……どうしたんだい? ノナン君……」

平次「無事やつたんやな! よかつた」

哀

「よくないわよ。どれも急所ではないものの江戸川君もひり発はつたれているんだから・・・コレがち丈夫にみえる?」

アリ「とりあえずかえりましょ。ここは危険だわ・・・」

平次「せやな。こいか。」

そして車のなか・・・

平次「なんやとおー? スコッチが射殺されたー?」

博士「ああ。新一がおとしていつためがねできいていたんじゃが。」

哀「にしても髪だけでだれかわかる? 普通」

アリ「そうね。江戸川君のかみは男の子にしてはめずらしこそぞびわらさうしてて細いけど、髪だけじゃ、ねえ・・・」

光彦「そうですね・・・」

「ナント「でも」ええよな～監禁されて銃でうたれたなんて。」

「ナンは一番後ろのせきで手をあかくそめて皿をつりすりあけながら荒い呼吸をしていた。

哀

「どういわる紀なの?」藤君。これから……」

「ナン「安心しゆよ……畠山でもひついやつかり……」

博士「おこおい、無理じゃよそんな体じやあ……」

哀「大丈夫。私のとおと回じよつにさがれなことおもうから。江川君。いまからびょうんいくわね。」

「ナン「こ、よ。弾は貫通してゐし、包帯まけば大丈夫だつて……」

哀「でも……」

アリ「ストップ。しょうがないじゃないの。あんあこどがあつたのよ?あなたとおなじよつにわすがの江川君でもこわがつてもしうがないでしょ?」

哀「……それもそうね……かえつたら包帯まで麻酔銃でねかしこけばいいわね。朝まで心配だからみはつていていたらかれ、ねないだらうから。」

アリ「そうね……」

歩美「今日は歩美たちもとまつてよ。」

平次「そか。蘭ちゃんはまだいるんや?」

哀「そうね・・・とまつてくて博士、電話してくれる?」

博士「わかった。でも新一、その怪我じゃしばらくあるけないんじやないかの。」

夢「平氣です。あとで私達が松葉づえ病院からかりてきますから。」

博士「そつかの?あ、ついたぞ。わしはレンタカーかえしてくるから新一君をねかししてくれんかの。」

平次

「ああ。それならまかせろや。」

金圓おつると博士は車をかえしにいった。

子供達もそれにつけ。

家にはいると哀の案内でリビングにある大きなベッドにコナンをねかせると平次がきがえ哀画治療をはじめた。

哀「まつたく。ひどいわね・・・。1週間はあるかなこわよ?」

歩美「うれしー。学校はびりあるの?」

哀「いけつていつたでいかないでしょ。ね？」

歩美「た、確かに。」

平次が着替えをもつてきてコナンはそれにつきおがえると布団にはいつたが目はしつかりあいていた。

それをみかねた哀がコナンに麻酔張りをつかむと、コナンとまじずかにねいつていった。

ファイル2～黒の組織との再会、コナン編～（後書き）

登場人物

住山孝（38）カメラマン
マイケル・布拉ッグ（29）俳優
斎藤五木（33）作家
バング・ローダリー（63）俳優
朝日洋子（33）作家
武井広永（55）カメラマン
沢口千夏（22）モデル
コナン君の服装
パークーのついたジャケットに、水色のセーターとながずぼん。
哀ちゃん
上にセーターでしたに赤色のスカート。
アミちゃん
氷河らのつけえりにピンク色のニットのももんが。
短めのデニムのすかーとニクローのタイツにブーツ。
夢ちゃん
ジャケットに青のセーターに半ズボン
歩美ちゃん
ピンクのニットのワンピースのなかに、ハイネックの白のTシャツ。
ブーツ
光彦君
セーターに長ズボンにマフラー
げんたくん
袖なしじゃけっとにセーターに半ズボン。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0214ba/>

キャラ崩壊！！物語1～こくこく染まる黒～

2011年12月31日18時48分発行